

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880</a>

134

春 光

上野 隆夫

大塚 隆夫

大塚 隆夫

大塚 隆夫

相 利

大臣米商村地埋交渉会議の件

44.2.15 米商誌

2月15日 大臣 村野の米商村地埋交渉  
白紙交渉に同意、約1ヶ月を要するとの見解

先般 先方、沖縄通過問題に於いて米政  
府は未だ白紙であり個人の意見として申し

出るとして、速に打ち合ひを要するとの見解

1. 基地の地位に於いて、換や自衛隊に於いて  
本土並みでない取扱いを公にした場合

を以て日本国内の施設に際し此の如く  
本元まで、基地の米商の意を最大尊重する

公に打ち合ひの仕方は国内で、米商に於いて  
とるに由り、本土並みを認めようとする問題

に於いては、取扱いの差をいかにやうにする

と云ふことが、最も重要であるやうである。

2. 日本側としては、或一線以上は政府  
から示され、又或一線以上を公に約束

しても宜い。基地に本元まで、米商の  
意がある、と云ふ一線から打合ひを要する

先般、先方を米商に指示し、先方に於いて  
米商の意を政府に反映せしめる、と云ふ打合ひ

が最も重要であるやうである。

3. 本土には一つの趨勢が生まれるといふ  
(即ち、朝鮮半島の件を含めて「本元」を

認むべき) 沖縄が先方、米商の意を  
公に打ち合ひの仕方は国内で、米商に於いて

とるに由り、本土並みを認めようとする問題  
に於いては、取扱いの差をいかにやうにする

要は、今の取決物は、日本国内で、専断的に  
を扱った、形を取った、形を取った、形を取った

それ以上のものが、必要で、それを取決めた  
と、それ以上のものが、必要で、それを取決めた

と、思ふ。

4. 国合解散は、日本の問題であるが、今  
は、国合解散は、日本の問題であるが、今

以上を、日本に、戻す、と、思ふ、と、思ふ、と、思ふ、  
以上を、日本に、戻す、と、思ふ、と、思ふ、と、思ふ、

以上を、日本に、戻す、と、思ふ、と、思ふ、と、思ふ、  
以上を、日本に、戻す、と、思ふ、と、思ふ、と、思ふ、

と、思ふ。

5. 以上は、今の取決物は、日本国内で、専断的に  
を扱った、形を取った、形を取った、形を取った